

危険物取扱者 [乙種・性消(第4類危険物)・正誤(12)]

<一問一答>

正しい文章には○を、誤っている文章には×を、それぞれ記号で答えよ。

- (1) アセトアルデヒドは特殊引火物である。【 】
- (2) アセトンの蒸気比重はベンゼン、酢酸エチル、トルエンに比べ大きい。【 】
- (3) ベンゼンが固化したものは、引火の危険性はない。【 】
- (4) エタノールは酸化によりアセトアルデヒドを経て酢酸になる。【 】
- (5) メタノールとエタノールは飽和1価アルコールである。【 】
- (6) 自動車用ガソリンはメタノールに比べて燃焼範囲が狭い。【 】
- (7) 軽油の引火点は40℃以下である。【 】
- (8) クロロベンゼンの燃焼範囲は6から36vol%である。【 】
- (9) 酢酸の燃焼下限界は、ガソリンのそれよりも低い。【 】
- (10) 軽油は一般に淡青色に着色されている。【 】
- (11) グリセリンは第3石油類であり、水溶性である。【 】
- (12) 重油は日本工業規格において、A重油、B重油、C重油に分類される。【 】
- (13) クレオソート油はコールタールから得られる。【 】
- (14) 第4石油類には水より重いものがある。【 】
- (15) 動植物油類において、引火点が高いものほど自然発火しやすい。【 】

危険物取扱者 [乙種・性消(第4類危険物)・正誤(12)]

<一問一答>

正しい文章には○を、誤っている文章には×を、それぞれ記号で答えよ。

- (1) アセトアルデヒドは特殊引火物である。 【○】
特殊引火物である。
- (2) アセトンの蒸気比重はベンゼン、酢酸エチル、トルエンに比べ大きい。 【×】
アセトンの蒸気比重は2.0で、他の三つよりも小さい。
- (3) ベンゼンが固化したものは、引火の危険性はない。 【×】
凝固点は5.5℃だが、引火点は-11℃なので引火の危険性がある。
- (4) エタノールは酸化によりアセトアルデヒドを経て酢酸になる。 【○】
酸化によりアセトアルデヒドを経て酢酸になる。
- (5) メタノールとエタノールは飽和1価アルコールである。 【○】
飽和1価アルコールである。
- (6) 自動車用ガソリンはメタノールに比べて燃焼範囲が狭い。 【○】
ガソリンが1.4から7.6vol%で、メタノールが6.7から37vol%である。
- (7) 軽油の引火点は40℃以下である。 【×】
引火点は45℃以上である。
- (8) クロロベンゼンの燃焼範囲は6から36vol%である。 【×】
燃焼範囲は1.3から10vol%である。
- (9) 酢酸の燃焼下限界は、ガソリンのそれよりも低い。 【×】
酢酸の燃焼下限界は4.0vol%で、ガソリンの燃焼下限界は1.4vol%である。
- (10) 軽油は一般に淡青色に着色されている。 【×】
淡黄色または淡褐色に着色されている。
- (11) グリセリンは第3石油類であり、水溶性である。 【○】
第3石油類であり、水溶性である。
- (12) 重油は日本工業規格において、A重油、B重油、C重油に分類される。 【○】
日本工業規格において3つに分類される。
- (13) クレオソート油はコールタールから得られる。 【○】
コールタールから得られる。
- (14) 第4石油類には水より重いものがある。 【○】
リン酸トリクレジルの比重は1.17で、水より重い。
- (15) 動植物油類において、引火点が高いものほど自然発火しやすい。 【×】
熱の蓄積が発火点に達すると自然発火する。